

家庭血圧を測定している地域在住高齢者における年代別の白衣現象と仮面現象の割合とその関連因子の検討

Self-monitoring home blood pressure in community dwelling older people: Age differences in white-coat and masked phenomena and related factors -The SONIC study

ト 進梅

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

【目的】 地域在住一般住民高齢者において家庭血圧ならびに調査会場で測定した血圧値で判定した白衣現象と仮面現象の実態とそれらの関連因子を明らかにする。

【方法】 地域在住高齢者を対象とした長期縦断疫学（SONIC）研究に参加した73±1歳、83±1歳、90±1歳の高齢者で家庭血圧を自己測定し、血圧手帳を調査時に持参した380人を横断的に解析した。会場にて病歴、生活習慣などの問診と、座位血圧を測定した。（会場血圧－家庭血圧）>10mmHgを白衣現象、（会場血圧－家庭血圧）<0mmHgを仮面現象と判定し、白衣現象と仮面現象に関連する因子をロジスティック回帰分析で解析した。

【結果】 対象者380人のうち、70歳代は95人(25.0%)、80歳代は245人(64.5%)、90歳代は40人(10.5%)であった。女性は48.7%、高血圧剤服薬有りは291人(76.6%)であった。降圧薬内服中の高血圧患者において、白衣現象は183人(48.2%)、仮面現象は115人(30.3%)に認められた。各年代において白衣現象の割合が最も高かったが、年齢が上がるにつれて白衣現象の割合が減少し、仮面現象の割合は逆に増加していた。多変量解析では、白衣現象には年齢が低いことが独立した関連要因であった。

【考察】 高齢者高血圧では白衣現象が最も多いが、後期高齢、超高齢と年齢が上がるにつれてその割合が減少し、仮面現象の頻度が増える。年代によってプロフィールが異なること、個別的な配慮が必要な高齢者での家庭血圧測定的重要性が示唆された。